

NEWS LETTER

エジプト・アラブ共和国
特別活動を中心とした
日本式教育モデル発展・普及プロジェクト



ニュースレター第11号

本号では、ニュースレター4号に続き、Tokkatsu指導員について特集しています。エジプト日本学校や公立学校を巡回する彼らの、日々の奮闘や活躍、成長の歩みをご紹介します。

他にも、エジプト日本学校での幼稚園の取り組みなどを紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

第11号の 主な記事

Tokkatsu指導員
のおしごと
Vol.2

エジプト日本学校
幼稚園での遊びを
通じた学び

エジプトでは、日本の学習指導要領に定められた「特別活動」を参照し、現地の制度や習慣に沿って現地適応化しています。そこで、本紙では、エジプトのものを「Tokkatsu」として表します。

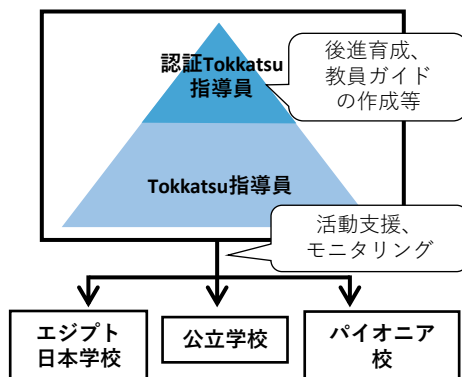
Tokkatsu指導員のおしごと Vol.2

エジプトにおけるTokkatsu指導員の主な仕事は、学校を訪問しTokkatsuを実践する先生方にアドバイスをすることや、Tokkatsuの実施状況や学校の課題やおこまりごとをレポートすることです。（詳しくは[ニュースレター4号](#)をご覧ください。）本号では、エジプト全土に200人に増えたTokkatsu指導員の概要、新人Tokkatsu指導員の紹介、新人Tokkatsu指導員の奮闘の様子、最後にTokkatsu指導員の成長の歩みをお届けします。

Tokkatsu指導員の人数 約200人

エジプト日本学校担当	公立学校担当	パイオニア校担当
100人	94人	9人

プロジェクトが始まった当初は、30人にも満たない規模のTokkatsu指導員でしたが、現在はエジプト日本学校だけではなく、公立学校の担当者も加わり200人以上にまで増えました。



働いている人の背景

教員経験者や地方の教育委員会で働いてる人が応募し、Tokkatsu指導員になることが多いです。多くの人は、Tokkatsu指導員になって初めてTokkatsuに関わります。新任のTokkatsu指導員は、集合研修で基本を学び、その後もプロジェクトが支援する全Tokkatsu指導員を対象とした年2回の集合研修や実地研修、先輩からの指導で経験を積みまます。一方で、教員としてTokkatsuを学び実践し、Tokkatsu指導員になった人もいます。

多くのTokkatsu指導員は平均して週2回担当の学校を巡回します。

地域や担当校にもよりますが、エジプト日本学校と公立学校を担当し巡回している人もいます。



Tokkatsu指導員の内、現在54名がTokkatsu指導員認証制度により認証されています。

経験を積んだTokkatsu指導員を対象に、これまで5回、認証試験を実施してきました。認証試験に合格したTokkatsu指導員たちは、Tokkatsu普及の中心メンバーとして、後進育成や教員ガイドの作成等に貢献しています。

エジプト日本学校と公立学校担当での仕事内容の違い

エジプト日本学校と公立校では、学校の設備や教員に対する研修の機会、また保護者のTokkatsu実施の理解など、様々な点で環境が異なります。公立学校担当のTokkatsu指導員は、Tokkatsu担当の先生へのサポートに加え、学校管理職や保護者、また地域の教育委員会との連携にも力を入れ、一般の人からTokkatsuの理解や協力を得られるよう働きかけています。

地域の代表による月例会議の実施



各地域の代表12人のTokkatsu指導員と、エジプト国教育技術教育省事業管理部(PMU)のTokkatsu開発担当のメンバーが、情報共有やモニタリングの強化など、様々な課題解決に向けて毎月会議を行っています。

次のページからは、新人のTokkatsu指導員をご紹介します！

新人Tokkatsu 指導員 5名の紹介

エジプト日本学校担当と
公立学校担当の
Tokkatsu指導員をご
紹介します。
働き始めて一年目の彼
女たちの抱負や苦勞、今
後のチャレンジなどイン
タビューしました。



エジプト日本学校担当Tokkatsu指導員

アミーラさん

小学校の英語の先生として働いていました。所属していた公立学校が日本式教育を導入しているパイロット校だったことで、日本式教育、Tokkatsuに興味をもったことがきっかけで、エジプト日本学校に関わるようになりました。

2019年からエジプト日本学校の教員として働いています。2024年からは、ヘルワン校のTokkatsu指導員として働いています。ヘルワン校はチーム全体が新しいため、Tokkatsuの考え方を浸透させるのに苦勞しています。



サルマさん

パイオニア校で音楽の教員として働いていますが、そこでTokkatsuを知り、Tokkatsuをもっと知りたい、広めたいと思います。Tokkatsu指導員になりました。

パイオニア校では、エジプト日本学校と比較し、フォローアップが不足しています。今回自分がTokkatsu指導員になったことで、エジプト日本学校だけではなく自身が勤めるパイオニア校でも指導していきたいです。



公立学校担当の新人Tokkatsu指導員

シャイマーさん

幼稚園の専門を学び、幼稚園の先生として働き、今は小学校の副校長として働いています。エジプト日本学校が私の住んでいる県で開校したときに息子を通わせたいと思い色々調べました。残念ながら息子は4年生だったので入学はできませんでしたが、Tokkatsu指導員の募集があると聞いて応募しました。

私は日本のシステムがとても良いものだと感じているし、子どもたちを教育するには、田舎の風習を変えなければなりません。それを自分の手で行いたいと思ったからです。

アラーさん

スクールジャーナリズムとメディアスペシャリストの博士号をとり、小学校で8年間働いていました。エジプト日本学校については、最初にインターネットで知りました。その後、友人からTokkatsu指導員の募集があると聞いて興味をもち、友人と応募し合格しました。エジプト日本学校での研修は新しいことばかりで退屈しません。

公立学校にはまだTokkatsuの考えや文化がありません。掃除は特にチャレンジですが、日直などの役割は子どもたちは喜んでやります。まずは学校の先生への研修から始めたいです。

ザムザムさん

幼稚園での研修指導員として働いていました。2024年9月からベニスエフのTokkatsu指導員として働き始めました。

Tokkatsuの活動は、子どもがただ座って参加しているのではなく、人として個々が大切にされていると感じています。ベニスエフ地域の近隣校のイベントに参加したことがありますが、困難に直面した際には、常に同じ地域3校でのTokkatsu指導員に相談します。彼らの経験や困難を克服する方法について助言を得ています。

今後公立学校でもTokkatsuの考え方が適用されることを望みます。

新人Tokkatsu指導員の奮闘

ベニスエフの公立学校で、地域のTokkatsu指導員を対象とした研修が実施されました。シャイマーさん、ザムザムさんが参加しました。研修の様子をレポートします。

1. 学級指導の授業参観

今日のTokkatsuの授業は、6年生の学級指導の授業です。テーマは「聞き合う学級になろう」です。授業は、シャイマ先生が、子どもたちを二人一組にして最初に「相手を無視する会話をしてみましょう」、次に、「相手の話を聞いて会話をしてみましょう」と簡単なゲームからスタートしました。その後、先生がなぜ聞き合うことが大切なのか、子どもたちに投げかけながら進みました。授業の最後には、子どもたち一人一人が頑張りカードを書いて、締めくくられました。



相手を無視する会話ゲームに取り組む様子



意見を出し合う子どもたちの様子



授業を見学しメモをとる
Tokkatsu指導員の様子

2. 学校担当のTokkatsu指導員による先生へのフィードバック

今日の授業は、参観者が多く、先生は緊張していたかと思いますが、子どもたちが積極的に参加しており素晴らしい授業でした。



担当Tokkatsu指導員によるフィードバック

3. 日本人専門家による、先生へのフィードバック

授業の様子を撮影した動画を用いたフィードバックが行われました。「今日の授業の様子を撮影した動画で見てみましょう。この子どもの様子は先生は気づきましたか？」と先生へ問いかけがあり、子どもの変化や表情に注目し授業を行うことの重要性が伝えられました。

またTokkatsu指導員に対しても、具体的なフィードバックの方法や動画や写真等を用いたフィードバック方法が共有されました。



授業動画を用いたフィードバック

4. 日本人専門家から、参加したTokkatsu指導員へのフィードバック

Tokkatsu指導員向けのフィードバックでは、最初に授業を参観し、良かった点や改善点を参加者同士で共有しました。Tokkatsu指導員からは子どもたちから具体的な目標が出てこなかったことや、授業の振り返りの時間が不足していたことが上げられました。

日本人専門家からは、「子どもたちから具体的な意見を引き出し、議論を深めるには、シャイマ先生にはどのようにアドバイスしたら良いと思う？」と質問が投げかけられ、全員でどのようにアドバイスしたら良いかディスカッションしました。Tokkatsu指導員からは、子どもに近づいて一人一人を褒める、名前を呼んで安心感を与えるなどのアイディアがでました。

最後にアドバイスの一例として、子どもと先生が一对一で会話するのではなく、「〇〇さんから△△という意見が出たけど、□□さんはどう思う？」と子ども同士を繋げて意見交換の機会を設け、子どもが主体になる方法が紹介されました。



ディスカッションの様子



会話をつなげる工夫の紹介

研修を受けた、新人Tokkatsu指導員の感想

今日の研修は、とても素晴らしいかったです。フィードバックでは、私たちTokkatsu指導員に「どうやって実際に動くのか」を見せてくれたので、私たちも、今後そのやり方を実践したいと思います。(ザムザムさん)

撮影動画の活用も良かったです。先生は、緊張や不安から、自分の行動を守ろうとして弁解を始めてしまいましたがその状況をとてやさしく受け止めて、先生を安心させてあげていました。そのような接し方が重要だと学びました。(シャイマーさん)



Tokkatsu指導員成長の歩み

Tokkatsu指導員の特集の最後に、エジプト国教育技術教育省事業管理部（PMU）のTokkatsu開発・普及担当の職員でTokkatsu指導員によるモニタリングを総括する担当のサハルさんによる、Tokkatsu指導員成長レポートと日本人専門家によるコメントをご紹介します。



授業を参観する様子。
写真左がサハルさん

みなさん、こんにちは。サハルです。私は、モニタリングチームのリーダー、またエジプト人コアチームのメンバーとしてJICA専門家チームと連携し、数年間Tokkatsu指導員を支援してきました。過去3年間のモニタリングプロセスの変化や感じたことを、学校訪問やTokkatsu指導員認証試験の参観、また地域代表のTokkatsu指導員やサポートチームによるレポートを通じて報告します。

Tokkatsu指導員のモニタリングの視点や手法は大きく進化しました。中でも、最初にお伝えしたいのは、Tokkatsu指導員のスキル向上が、Tokkatsu指導員と先生、そしてTokkatsu指導員同士の信頼関係の構築につながったことです。

以前は、電話やオンライン会議で時間と労力をかけて問題解決を図り、人間関係の改善に苦労していました。しかし、現在、両者の関係は大きく改善しました。Tokkatsu指導員と学校職員は、成功を目指すパートナーとし、お互いをより信頼し合い、前向きな協力関係を築き始めています。

これから、JICA専門家チームと私たちが実施した最近3年間のトレーニングの内容、またTokkatsu指導員と先生がどのように関係を作っていったかをお伝えします。

最初のトレーニング：授業は子ども中心という共通理解

授業の評価は、授業の進行や手順の正確さではなく、子どもたちの態度や表情、行動から読み取るべきだという考えを共有しました。授業を通して、子どもたちの表情や行動を観察することが大切であり、授業の中心は先生ではなく、子どもたちです。

2回目のトレーニング：Tokkatsu指導員と先生はパートナー

先生とTokkatsu指導員は、共に成功を目指し、弱点を改善していくパートナーです。この理解が深まることにより、Tokkatsu指導員が先生を非難する場面が減り、両者間の対立が解消されました。Tokkatsu指導員はもはや監督者ではありません。また、学級会の計画段階を撮影する方法についても学びました。

3回目のトレーニング：信頼関係の築き方

Tokkatsu指導員が、建設的な対話を通じて先生との信頼関係を築く方法を学びました。先生とTokkatsu指導員がどのように対話をすれば良いかのトレーニングです。Tokkatsu指導員が先生に自己評価や自己改善の方法を伝える技術も学びました。

4回目のトレーニング：撮影を使ったフィードバック方法

授業の写真やビデオを活用し、1人以上の子どもに焦点を当て、その反応の変化について先生と話し合うフィードバック方法を学びました。撮影した子どもの様子を見て、Tokkatsu指導員は「この子の性格についてどう思いますか？」と先生に質問することで、リラックスした雰囲気先生との対話を始めることができます。ビデオを使用することで、先生が子どもを理解することに重点を置くことができ、学級経営の改善にも効果的でした。

期待される最終トレーニング：解決策の提示に向けて

日本人専門家はTokkatsu指導員のモニタリングレポートを読んだ後、Tokkatsu指導員の役割について焦点を当てました。Tokkatsu指導員は観察者、参加者、アドバイザーという役割を持ち、最終的には解決策を提示する存在を目指しますが、まだTokkatsu指導員の多くは解決策を提示することはできません。夏のトレーニングでは、この部分を重点的に強化できることを願っています。

現在、地域のTokkatsu指導員のグループは、同じ地域のTokkatsu指導員とオンライン会議を実施しています。経験を共有し、問題を共有し、解決策を話し合い、最後に文書化しています。

このようなトレーニングやサポートを日本人専門家が私たちに提供してくれたことに感謝します。私たちは、忍耐が奇跡を起こすことを学びました。そして、Tokkatsu指導員の本当の役割は周囲の人の不安を感じ取り、その人たちの努力を大切に、失敗を恐れずに挑戦できる環境を作ることだと分かりました。

私たちは、子どものために人道的なコミュニティを築く集団です。私たちの目標は、間違いを見つけたりミスを指摘したりすることではなく、支援を継続し続けることです。現在では、多くのTokkatsu指導員がこの理念を理解しており、それが最近のモニタリングの変化の背景にあると考えています。

モニタリング担当の日本人専門家よりコメント

『Tokkatsu指導員は、これまで長い年月をかけて着実に成長しています。彼らは教師の伴走者としての役割を自覚し、授業観察の力も身につけてきています。その粘り強い学びの姿勢には深く敬意を表したいです。今後は、教師に対し具体的かつ的確にアドバイスできるスキルの習得が求められます。そのためには、指導員同士で互いに学び合い、教師からも謙虚に学び続け、常に自らの実践を振り返る姿勢が不可欠です。さらなる成長を期待したいです。』

エジプトでのTokkatsu普及にかかせないTokkatsu指導員の奮闘を感じられたでしょうか？プロジェクトでは、彼らの益々の活躍、成長を期待し支援していきます。

エジプト日本学校

幼稚園での遊びを通じた学び

エジプトの幼稚園では、小学校のような教科の時間が多く、子どもが主体となって遊ぶ時間は短いです。しかし、エジプト日本学校の幼稚園では、「遊びを通じた学び」の時間が毎日あり、この時間では、子どもの主体性を重視した自由遊びを多く実践して、遊びから沢山のことを学び、自ら考える力が身に付くように子どもを導いています。本号では遊びを通じた学びの時間の様子と幼稚園での新しい取り組みをお届けします。

- 1 先生が子どもたちに、今日の遊びで行う内容を説明しました。その後、子どもたちは係の子が道具を運び、それ以外の子どもが列になって園庭にでます。



- 2 子どもたちは、折り紙やお絵かき、貼り絵、ねんどや輪投げなど、好きな遊びを選んで遊びます。先生は子どもたちに積極的に話しかけ、子どもたちがやりたい遊びを自分でできるようにサポートをします。



- 3 遊びの時間が終わった後は、全員で掃除と片付けを行います。ごみを捨て、机をきれいに拭き、使った道具や机を片付けます。



- 4 子どもたちが教室に戻った後は、先生から今日はどんな遊びをした？何が楽しかった？何を作ったの？など子どもたちと今日の遊びを振り返ります。



エジプト日本学校の幼稚園における「スーパーバイザー」を活用した指導

エジプト日本学校の幼稚園では、それぞれの学校に「幼稚園スーパーバイザー」と呼ばれるリーダーの先生がいます。幼稚園スーパーバイザーは、エジプト国教育省の事業部（PMU）から任命され、幼稚園の先生たちをまとめながら、クラスや学校での課題を解決し、先生の指導力を高めることや質を上げるなどの役割を担っています。

スーパーバイザーの先生たちは、学校に所属し、長年の幼稚園での経験を持っているため、現場のことをよく理解し知識が深いのが特徴です。「遊びを通じた学び」の時間だけでなく、教科の授業も含めて、幼稚園全体を監督、サポートしています。また、学校の中だけでなく、エジプト国教育省の事業部（PMU）と学校の橋渡し役としても重要な役割を果たしています。

この取り組みは約2年前から始まり、今では全国にあるエジプト日本学校のうち、生徒数の多い大規模な学校15校ほどで実施されています。小規模な学校では、スーパーバイザーは任命されておらず一番経験の長い先生がリーダーとしてその役割を担っています。

制度自体は日本人の専門家が提案しましたが、エジプト側が主体となって発展させてきた点も大きな特長です。最近では、このスーパーバイザー制度を、幼稚園だけでなく小学校でTokkatsuを担当する先生たちにも広げることが検討されています。

エジプト日本学校における新たな試み ー キャリア形成と市民社会形成の導入ー

エジプト日本学校では、これまで小学校課程において、日本の教育における特色の一つであるTokkatsuを6年間実践してきました。エジプトでのTokkatsuは、学級会、学級指導、委員会活動、学校行事などを通じて、児童生徒の社会性や自主性を育むことを目的としています。一方で、これまでの実践の中で、学校や教員の間では、「生徒が将来、社会や職業の中でどのような役割を果たすか」を考え、主体的に行動する力を育てる教育活動が十分ではないという課題も認識されてきました。

そこで今年度より中学校で新たに導入されたのが、「キャリア形成」です。キャリア形成は生徒が将来活躍する未来社会の姿と、関連する職業や仕事内容を学んでそれに基づいたビジョンや計画を立てることで、今後果たすべき役割の準備・実践をすることを目的としています。これは生徒が仲間と協力して社会課題解決に向けて行動する「市民社会形成」と合わせて中学校段階での新たな教育の柱として位置づけられています（参照プロジェクトニュース [エジプト日本学校で始まった中学校のTokkatsu](#)）。

◆ 実践例：キャリア形成の活動から見える生徒の成長

2024年9月以降、エジプト日本学校ではキャリア形成および市民社会形成の枠組みに基づいた授業が始まりました。ここではキャリア形成の授業の様子を紹介します。

キャリア形成の実践例：

大学生の経験から学ぶ授業

個人のキャリア意識を育てるキャリア形成の取り組みとして、エジプト日本学校ボルグエルアラブ2校では大学生を招いた授業が行われました。1学期には、地域の人材を招き生徒が自分のキャリア形成を考える授業が行われましたが、キャリア形成の時間では1年間を通して地域の方に加えて、大学生を招き、自らの将来を考える活動を行っています。

授業は生徒主体で運営され、司会やタイムキーパー、記録係、感謝の言葉を述べる係などを生徒が分担。事前に、ゲストの大学生に贈るためのカードや紙の花を手作りする準備活動も行われており、当日の実施に向けた丁寧なプロセスが踏まれていました。

当日は近隣大学のエジプト日本科学技術大学、アレキサンドリア大学から、建築・工学・文学・ビジネスといった異なる分野の大学生3人と大学教授が、自身の学びや日常生活、進路選択における責任感などについて生徒に分かりやすく語ってくれました。

建築学科の大学生からは、「大学生活は自由が多い分、自分を律する力や責任感が求められる」という話があり、生徒たちは中学校生活と比較しながら熱心に耳を傾けていました。工学を専攻する大学生からは、「AIやロボット工学」といった最先端技術についての説明があり、テクノロジーに関心のある生徒からは積極的な質問も見られました。



授業冒頭の様子



生徒主体となって大学生と関わる様子



大学生の講話の様子

また、文学部で中国語を専攻する大学生は、「中国語を学ぼうと思ったきっかけや、具体的な単語・発音・文字表記」について話をし、普段なじみのない言語に生徒たちが興味をもつ様子が見られました。ビジネスが専門分野の教授からは、学科の概要について紹介があり、多様な将来像に触れる機会となりました。

質疑応答の時間では、生徒たちから「どのように大学へ入りましたか、なぜそのコースを選んだのですか。」「中学校と大学の生活は何が違いますか。」「中学校の時はどのくらいの成績でしたか。」「もし中学生に戻るとしたらどんなアドバイスを送りますか。」といった質問が挙がりました。

生徒たちは、自分自身の進路や現在の学びと結びつけ、真剣に考えながら質問していました。大学生たちはそれぞれ丁寧に答え、話しながらも生徒の姿勢に感心している様子が見られました。授業の終盤には、係の生徒から感謝の言葉を述べる時間が設けられました。実際に聞いた内容を自分自身の生活にどう活かしていきたいかについての発言もあり、話を「自分ごと」として受け止めていた様子が見られました。また、プレゼントとして用意した手作りのカードと紙の花を受け取った大学生たちの表情も印象的で、温かな交流の場となっていました。

授業が終わった後、大学生と授業の振り返りを行い、次のようなコメントがありました。

「中学生のうちにこのような活動をすればより幅広い選択肢になったと思う。実践的で魅力的だった。」「たくさん伝えたいことがあったから楽しかった、子どもに教えることが好きだから楽しかった。」「子どもはよく考えて活動していて驚いた。」「今回のインタビュー活動だけでなく、ワークショップなどより実践的な活動をしてあげたい。」このように生徒の主体的な姿勢や今後の活動に関して前向きな意見が出されました。

今回は地域の方以上に、生徒のさらに身近な存在である大学生に話を聞き、自分の将来を見つめる時間となりました。それぞれのコースを専攻する大学生にどのようなことを聞きたいのか準備し、各係の分担のもと大学生へのプレゼント作りも経て、実際の授業をつくり上げたことは貴重な経験になったと思われます。

◆ 生徒主体の学びから社会へつながる教育へ

キャリア形成と市民社会形成は、初年度のため試行錯誤しながら学校で導入されていますが、来年度からは中学生が在籍するすべてのエジプト日本学校において本格的に導入・実践される予定です。現在は、教育目標や年間計画、活動内容などを含むカリキュラムの策定が進められています。



ミーティングの様子。写真左から3人目が駒宮さん

キャリア形成および市民社会形成は、教師主導の授業が中心となりがちなエジプトの学校文化の中において、生徒主体の学びを広げていく第一歩です。キャリア形成では個人の将来と真摯に向き合い、市民社会形成では仲間と協働して社会課題解決することを通して、教室にとどまらず学校全体や地域社会へと活動の輪が広がりつつあります。こうした取り組みが、生徒の社会参画意識を高め、自国への愛着や責任感を育むことにつながることが期待されています。今後の展開と生徒たちのさらなる成長に、ぜひご注目ください。

株式会社パデコ インターン：駒宮拓海

駒宮さんありがとうございました。本年度スタートした中学校でのTokkatsuは、エジプトの担当者とプロジェクトチームで試行錯誤しながら進んでいます。次回は、中学校の新しいTokkatsuの一つ市民社会形成の内容をお伝えできたらと思います。

第11号ニュースレターではTokkatsu指導員の奮闘を中心にお伝えしてきました。少しずつ課題を解決しながら、前進している様子を感じていただけたら幸いです。次号でも、エジプトのTokkatsuをお届けしていきます。

問い合わせ先

JICA技術協力プロジェクトチーム
holistic_edu@padeco.co.jp